

## 1 [目的]

この調査は本学在学生在が、受講した授業をどのように評価しているかについてのアンケートであり、本学の教育改善の基礎資料とするものである。

## 2 [方法]

### 2-1 対象

本調査は「既学習感・達成度」を把握することを主目的として、以下の9項目から成り立っている。

### 2-2 調査項目

- 設問1 「既学習感・達成度」(学生自身の「学び感」(修得感)の度合い)
- 設問2 「授業構造」(授業の組み立て)
- 設問3 「授業内容」(授業の分かりやすさ)
- 設問4 「授業内容」(授業の中身とシラバスの一致度)
- 設問5 「授業運営・教員」(授業に対する担当教員の取り組み方・姿勢)
- 設問6 「総合評価」(他の学生に推薦できる授業か)
- 設問7 「授業内容」(授業の意味・重要性の理解)
- 設問8 「授業への学生自身の取り組み方」(学生自身の学習努力について)
- 設問9 「総合評価」(授業全般に対する総合評価)

本調査の質問票は、学生が率直に回答できるように無記名とした。また質問文を簡素化したり、回答の度合いを5段階評価のマークシート方式を採用して答え易さに努めたり、授業内での実施を前提にするなど、学生・教員・授業への影響が少ないように最大限の配慮を試みた。

本調査のアンケート回答用紙は資料としてP164に示す。

### 2-3 実施期間

前期：前期開講の全科目。ただし、通年科目は含まない。

講義・演習・半期開講の実技系は2008年7月7日(月)～7月19日(土)。

## 2-4 実施方法

今年度は、学生の本調査に対する作業の軽減と回収率をアップさせるために、前期・後期ともに作業の簡素化を目指し、以下のような実施方法を採用した。

- 1、アンケートへの協力依頼・記入要領（科目コード・教員の氏名）・回答者のプライバシー保護・回収方法の説明は、授業担当教員が授業時間内に学生に対して行なった。
- 2、学生の回答作業はできる限り授業内に実施するものとした。しかし、実技・実習・演習などの授業形態の科目については、授業内での作業が困難なケースも考慮して、授業後の回答もやむをえない。
- 3、アンケートの回収方法は、授業内でアンケート作業を実施した場合にはデータの保護を配慮して、学生自身がその回収したアンケート票を教務学生課まで運搬する旨を徹底した。授業後に回答を求めた場合には、教務学生課に設置した回収箱に、各々の学生が直接投函する方法で回収した。なお、回収箱の設置はアンケート実施期間の2週間とした。

## 2-5 集計

本調査で回収されたアンケート用紙は、OMRマークシート読み取り機を活用してコンピューター内で読み取り、集計作業は市販されているアンケート集計ソフトウェアを用いた。

また授業形態やカリキュラム課程との関係を明らかにするために、クロス集計用ソフトウェアを用いてクロス集計を行なった。授業形態は講義・演習・実習・実技の4形態に、またカリキュラム課程は専門・教養・教職・学芸員の4種類に分類した上で、カリキュラム課程ごとの授業形態別集計結果及び授業形態ごとのカリキュラム課程別集計結果を算出した。

さらにこれらの集計結果を基礎データとして、上記の分類ごとの各設問に対する授業評価平均値を算出した。

本学の専門実技は少人数授業形式で行なわれているため、個々の学生の顔が特定されやすい。このことに配慮して、これまでと同様に、集計結果は個人のプライバシーを遵守するために、担当教員の授業コマごとに集計するのではなく、科目に関わる教員全員を一括して代表値を示すに止めた。この件については引き続き今後の検討課題でもある。